

◆2019年 中学入試算数 講評【聖光学院】

昨年ほどではないにせよ、
思考力重視の問題が揃いました。

小学生である受験生にとって無理のない範囲で、中学受験算数で学んできた知識をもとに試行錯誤したり、抽象化したりする力が求められています。

計算問題も入るなど、
いわゆる最難関校対策をしてきた受験生が、
聖光のためだけの過度な対策をする必要なく、
バランスの良い問題構成になっています。

大問1 小問集合

大問2 整数問題 場合の数
聖光を受ける受験生にとっては基本的な出題

大問3 平面図形
こちらも、聖光を受ける受験生にとっては基本的な出題

大問4 空間図形 切断 展開図 求積
二回切ったあとの切断の様子を展開図に書くこと、
最後の求積のシナリオを考えることは、
かなりのイメージ力が求められます。

大問5 仕事算
仕事算という一般的な分野ではありますが、
かなり多くの変数を操作する必要があり、
試行錯誤やそのセンスが要求される問題。
問題をパターンに落とし込むような学習に時間を割くのではなく、
單元ごとのエッセンスを味わうような学習をしてきていなければ、
なかなか歯が立たない問題です。
なるべく少ない給料で、すばやく仕事を終える方法を考えることが、
この題材（および実生活）の自然な課題ですが、
そこに触れた出題はありませんでした。
筆者個人としては、変数を減らしてでも、
その課題に行き着く方がなお、問題としての完成度は高かったように思いますが、
それでも十分に骨のある問題でした。